

# ステークホルダーの皆様の期待を踏まえて「多角化」「グローバル化」を推進しています。

## 多角化

カメラメーカーとしてスタートして以来、キヤノンはイメージング技術をコアに、事務機、半導体製造装置などの分野へと事業を展開してきました。お客様の豊かな生活と持続可能な社会の両立のために、キヤノンは技術イノベーションに尽力しています。

2010年は、オフィスネットワーク複合機「imageRUNNER ADVANCE」シリーズのラインアップを拡充するほか、各製品分野で、機能性や操作性を向上させた高い競争力をもつ製品を投入しました。さらに、メディカル分野など新たな多角化に向けた活動も強化しています。

## 「共生」

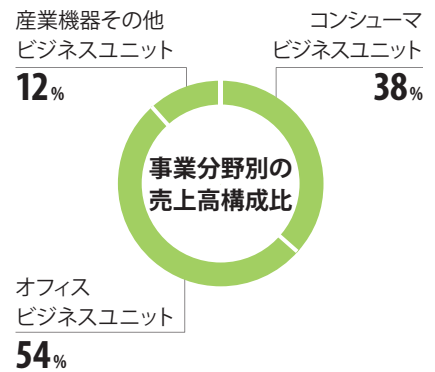
## グローバル化

創立当時から世界を視野に事業を展開してきたキヤノンは、1955年のニューヨーク支店開設を皮切りに、世界各地に販売・生産・研究開発拠点を開設。「共生」の理念のもと、各国・地域の法律や習慣、文化を尊重しながら、約19万人以上の従業員が、180以上の国・地域で登録商標となっているキヤノンブランドを支えています。

2010年は、成長著しいアジア市場での販売を促進するほか、オセ社（オランダ）を連結子会社化するなど、さらなるグローバル化に向けた体制強化を進めました。

### 事業と製品

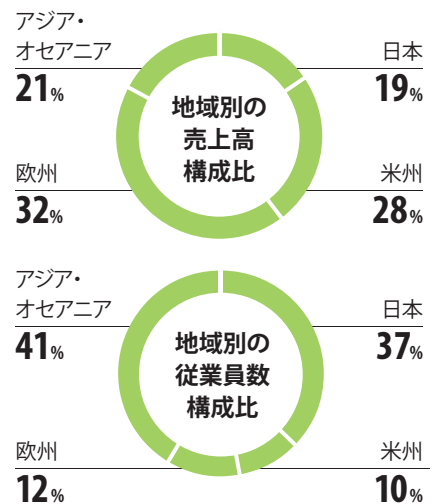
#### 多彩な分野のステークホルダーとともに



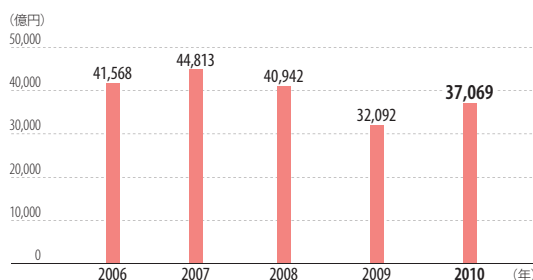
※ 事業分野別売上高には、ユニット間消去-4%があるため、総計100%となっておりません。

### 市場と拠点

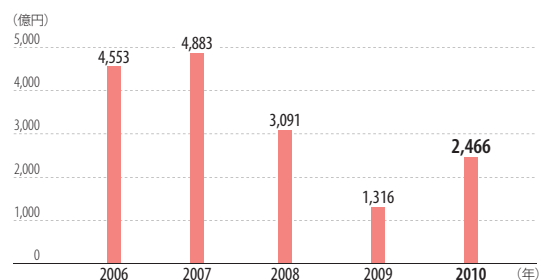
#### 世界各地のステークホルダーとともに



### 売上高



### 純利益



### コンシューマビジネスユニット

- デジタル一眼レフカメラ
- コンパクトデジタルカメラ
- デジタルビデオカメラ
- コンパクトフォトプリンター
- 一眼レフカメラ用交換レンズ
- イメージスキャナー
- インクジェットプリンター
- インクジェット複合機
- 業務用フォトプリンター
- 放送機器
- 液晶プロジェクター
- ネットワークカメラ



デジタル  
一眼レフカメラ



インクジェット複合機

### オフィスビジネスユニット

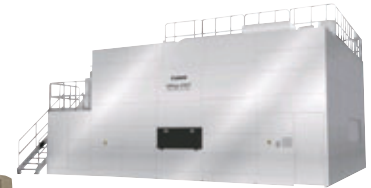
- オフィスネットワーク複合機
- デジタルプロダクションプリンター
- レーザープリンター
- レーザー複合機
- トナー・感光ドラム・トナーカートリッジ
- ソリューションソフト
- 大判インクジェットプリンター



オフィス  
ネットワーク  
複合機

### 産業機器その他 ビジネスユニット

- 液晶露光装置
- 半導体露光装置
- デジタルラジオグラフィー
- 眼科機器
- コンポーネント など



液晶露光装置



デジタル  
ラジオグラフィー

### 米州



米州では、キヤノンU.S.A.の統括のもと、販売エリアごとにサービスやサポートのインフラを整備し、市場の変化への柔軟な対応とお客様満足の上昇に努めています。また、研究開発・生産拠点を設置し、新事業の創出にも取り組んでいます。

### 欧州・アフリカ・中近東



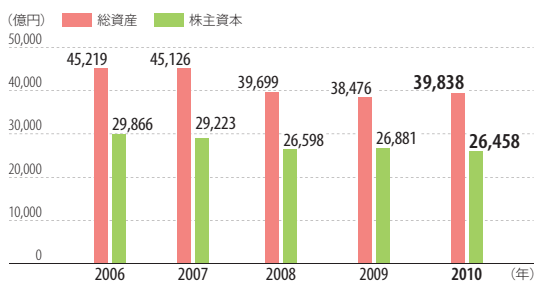
欧州では、キヤノンヨーロッパが中心となり、欧州全域からロシア、中近東、アフリカへと積極的な市場開拓を進めています。また、研究開発や生産の拠点を設けており、地域社会に根ざした事業活動を展開しています。

### アジア・オセアニア

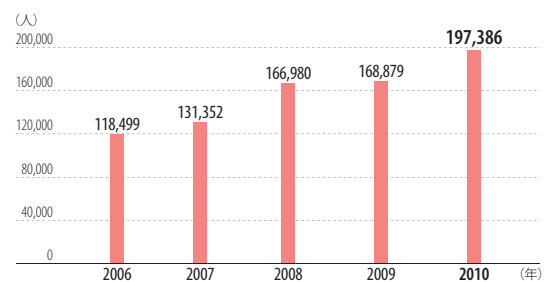


日本では、新規事業の開拓とともに、キヤノンマーケティングジャパンを中心にお客様との関係強化を図っています。アジアでは、生産・開発活動をはじめ、キヤノン中国を中心に販売を展開。オセアニアでは販売活動のほか、技術開発も行っています。

### 総資産と株主資本



### 従業員数



※ データは連結決算によるものです。

## 社会とともに持続的に成長していくために、 「グローバル優良企業グループ構想」を推進しています。

キヤノンは、「共生」の理念のもと、永遠に技術で貢献し続け、世界各地で親しまれ、尊敬される企業をめざす中長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想」を1996年から推進しています。「健全なる拡大」をめざし、2006年から展開したフェーズIIIでは、2009年の世界同時不況による厳しい経営環境を踏まえ、「経営のクオリティ向上」へと舵を切りました。その結果、さらに盤石な財務体質を築き、今後の飛躍に向けてモメンタムを強化することができました。そして2011年、キヤノンは「グローバル優良企

業グループ構想」フェーズIVをスタートさせました。「“Aiming for the Summit”～Speed & Sound Growth～」をスローガンとし、時代の変化に先んじて自らをスピーディに変革していくことで、改めて「健全なる拡大」に挑戦します。このフェーズIVでは、2015年の経営目標を「売上高:5兆円以上」「営業利益率:20%以上」「純利益率:10%以上」「株主資本比率:75%以上」と定め、キヤノングループの総力を挙げて主要な経営指標のすべてで「世界トップ100社」入りをめざします。



### 2010年の主な外部評価

#### Fortune 「Fortune Global 500」

- 売上高 世界**216位** (2009年190位)
- 純利益 世界**202位** (2009年131位)

2010年7月26日号。2009年度の売上高、純利益、総資産など5つの項目を評価



※ FORTUNE Global 500は、Time Inc.の米国での登録商標です。

#### Financial Times 「FT Global 500」

- 世界**93位** (2009年104位)
- (テクノロジー・ハードウェア・イクイップメント部門7位)

2010年5月29/30日付。2010年3月31日の時価総額(1株当たりの価格と発行済み株式数を掛けた数値)ランキング



## フェーズIV主要戦略

### 全主力事業の圧倒的No.1の実現と 関連・周辺事業の拡大

イノベーションにより競争力のある製品を投入し、ソリューションとサービスでも収益を拡大するとともに、関連・周辺事業を徹底的に強化・拡大します。



デジタル一眼レフカメラ

### グローバル多角化による 新たな事業の獲得と世界三極体制の確立

「メディカル」と「産業機器」を新しい事業の柱として育てつつ、グローバル多角化として日・米・欧の世界三極それぞれで開発体制を整え、事業の世界展開をめざします。



オプトポルテクノロジー社(ポーランド)

### 世界をリードする世界最適生産体制の確立

物流・調達・労働力、さらにリスクなどを総合的に判断し、最も合理的な生産拠点の配置を実現するとともに、内製化や生産の自動化を推進します。



キヤノンバージニア

### 世界販売力の徹底強化

今後、世界の成長センターとなるアジア、南米、アフリカなどの新興国・資源国での市場開拓を進めるとともに、先進国市場ではソリューション事業を強化していきます。



クイックサービスステーション(中国)

### 環境先進企業としての基盤の確立

省エネルギー・省資源関連の技術開発はもちろん、製品ライフサイクルのすべてを通じた環境負荷低減に取り組み、企業成長と環境保護の両立を図っていきます。



トナーカートリッジリサイクル

### 真のグローバルエクセレントカンパニーに 相応しい企業文化の継承と人材の育成

「三自の精神」のもとに「進取の気性」を発揮し、全従業員が常に変革へ挑戦する企業風土を醸成・継承していくとともに、グローバルな人材の育成に注力します。



グローバルリーダーの育成研修

## ステークホルダーの皆様の声に耳を傾け、 重点テーマに沿った活動を推進しています。

### 「多角化とサステナビリティ」に関する声

- より環境にやさしく、全人類が共存できる技術の創造に期待している(アジア/消費者)
- 世界が抱える課題解決につながる新しいソリューションに期待している(アジア/消費者)
- 事業拡大を進める一方で、専門分野の技術レベルが低下することは避けてほしい(米州/消費者)
- 品質と生産効率の向上につながる新技術に期待したい(欧州/NPO)
- 革新的な技術を医療分野で活かしてもらいたい(日本/NPO)
- 社会的弱者の視点を取り入れた使いやすい製品を期待している(日本/学生)

真の  
グローバル企業の確立  
国境を越え、地域を限定せず、  
しかも積極的に世界全体、  
人類全体のために  
社会的責任を果たすこと

### 「共生」

パイオニアとしての責任  
世界一の製品をつくり、  
最高の品質と  
サービスを提供し  
世界の文化の向上に  
貢献すること

キヤノングループ全員の  
幸福の追求  
理想の会社を築き、  
永遠の繁栄を  
はかること

- その国の環境条件に適応するような事業活動を行うべきである(アジア/消費者)
- 日本だけでなく、世界規模で有能な人材を確保すべきである(欧州/投資家)
- 海外においても日本と同等レベルの高品質な製品を期待している(欧州/NPO)
- 新興国への経済支援や現地人の雇用が重要である(米州/研究機関関係者)
- 海外でも日本と同等レベルの環境・社会活動を行ってほしい(米州/大学講師)
- 各地域の顧客や社会の課題解決につながる製品づくりを期待している(日本/官公庁・自治体関係者)

### 「グローバル化とサステナビリティ」に関する声

## ステークホルダー調査の結果、重点活動テーマを見直しました

キヤノンは、毎年、ステークホルダーの皆様へのアンケート調査を実施し、ステークホルダーの皆様の関心・期待を踏まえ、サステナビリティ報告書で報告する「重点活動テーマ」を決定しています。また、お客様や株主・投資家、サプライヤー、従業員など、それぞれ固有の立場から関心の高い活動についても把握し、報告しています。

2010年は、「グローバル優良企業グループ構想」フェーズIIIが最終年を迎える節目であることから、重点活動テーマを改めて見直すこととしました。今回のアンケートでは、大学・研究機関関係者、官公庁・自治体関係者も対象に追加しました。ステークホルダーの皆様

には、キヤノンが考える7つの重点活動テーマの妥当性と優先順位についてご検討いただきました。その結果、80%以上の方から、キヤノンが考えるテーマは「納得できる」との回答があり、優先順位の高い6つのテーマを選定しました。また、「キヤノンとステークホルダー」(P29~33)においても、ステークホルダーの皆様の関心の高い報告事項を優先して取り上げました。

なお、昨年まで重点活動テーマとしてきた「コーポレート・ガバナンス/コンプライアンスの強化」については、すべての企業活動の基盤であると認識しており、今後も引き続き社内における体制強化を図ってまいります。

**重点活動** | ステークホルダー調査の結果を踏まえ、ステークホルダーの皆様が重視している項目を報告しています



1 **イメージングによる  
コミュニケーションの活性化** ..... P11



2 **未来社会に貢献する  
イメージング技術の創造** ..... P15



3 **製品ライフサイクルを通じた  
環境負荷低減** ..... P19



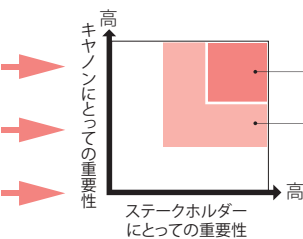
4 **多様な人材の  
雇用・育成・登用** ..... P23



5 **良き企業市民としての  
社会・文化支援** ..... P25



6 **「Canon Quality」の  
グローバルな浸透** ..... P27



**キャノンとステークホルダー** | 各々のステークホルダーにとって関心の高い項目を報告しています



お客様  
▶ P29



株主・投資家  
▶ P30



サプライヤー  
▶ P31



従業員  
▶ P32



地域・社会  
▶ P33



NGO・NPO  
▶ P33



大学・研究機関  
▶ P33



官公庁・自治体  
▶ P33



他企業  
▶ HTML